

(1) 明治時代のお話

明治という新しい時代の到来とともに、全国各地にあった城郭は大きく変化していきました。富山城も同様で、明治3年には、^{さん}三之丸内、現在の^{ほん}本願寺東別院と^{せい}西別院の間の道路から、^{しば}芝園小学校（^{そう}旧総曲輪小学校）の西側の道路辺りまでが、順に開墾され^{れん}練兵場となりました。

その様子は、『富山高岡沿革志』（明治28年発行）によると、「^{びよう}沙漠タル^{こう}曠原ニシテ^{さら}更ニ^め目ヲ^{さえ}遮キル物ナク中ニ一条ノ大道ヲ通スルノミ」でした。つまり、建物が何もない広野に、一本の大きな道路だけが通っていたということです。



明治18年の富山市街図（部分）です。ピンク色の部分が「総曲輪（惣曲輪）」、オレンジ色の部分が「桜木町」となった所です。

そして明治6年、明治政府により廃城令が出されました。これによって富山城は正式に廃城となり、以後本格的に解体が進んでいきました。千歳御殿跡は「桜木町」、それ以外の部分は「総曲輪（惣曲輪）」という新たな地名が付けられ、順に払い下げられていきました。

明治の廃城後、解体されていったことが6分の1になった理由のようです。それでは、解体が進んでいった部分から順に、その経緯を見てみることにしましょう。